

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は香川県の中西部に位置し、金刀比羅宮が鎮座する象頭山の東部に広がる平野の一角を占め、町全体の面積が8.46km²と狭い。気候は瀬戸内海気候で温暖であり、町の南西部を金倉川が流れ、溜池は少ないが出水は多く、農業用水は出水とともに香川用水と満濃池の利用により耕地状態は、ほぼ潤沢な農地となっている。

本町の農業は、米と麦・冬野菜を組み合わせた複合経営が多く行われており、農地利用率も非常に高く、高収益野菜であるニンニクやレタス栽培、軽量野菜であるナバナやオクラの栽培等に取り組むことにより零細性を補い生産性向上を図っている。しかしながら、農業従事者の高齢化にともなう生産面積の減少が進む中、認定新規就農者もいるが、農業従事者は若年層が少なく、今後、耕作放棄地等の発生が懸念される。そのため、人・農地プランの更新による、若年層を中心とした担い手への農地集積を積極的に行い、農地の有効活用を図る。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水田を活用し生産性の高い農業経営を支援するため、産地交付金の助成対象作物の生産拡大に取り組むことにより、担い手を含め管内農業者に対して所得向上を目指す。

このため、関係機関と連携し作付けの推進及び品質の向上により収益性の向上を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

生産性の高い水田農業の振興を図るため、当地域の農業は法人、担い手を含め意欲ある農業者に対して農地の集積・集約化を図り、水稻、麦類、高収益作物を組み合わせた、需要に応じた生産に取り組んできたところである。一方で、主食用米の作付減少が課題となっている現状をふまえながら、産地や水田の維持に向け主食米の生産確保を図り、その中で、麦類や高収益作物（野菜7品目）の作付けを推進するとともに、麦類や高収益作物のみを生産している水田の情報収集を行ない、水稻と麦類、高収益作物等を組み合わせた、地域や産地の状況に応じたローテーション体系について検討を行っていく。また、必要に応じて畑地化についても検討を行う。

4 作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

主食用米は、「コシヒカリ」と「おいでまい」を中心に生産している。今後の主食用米の生産にあたっては、需給見通し等を把握することにより、需要に見合った安定生産を推進し、法人や集落営農等の担い手を中心に農地集積、規模拡大による省力化・低コスト化を促進することにより経営の改善を進める。また、業務用向けの需要に対応するため、「あきさかり」等主食用多収品種を導入する。

（２）非主食用米（WCS用稲）

水田の有効活用や食料自給率向上に貢献するため、生産者と畜産農家とのマッチングが図れるよう連携を図りながら取り組みを進める。

（３）麦類、大豆、飼料作物

小麦、はだか麦については、当地域の水田裏作の基幹であり、県内でも有数の良質麦産地となっている。

小麦品種「さぬきの夢２００９」は、作付面積の維持と適期播種及び排水対策等基本技術の徹底により単収と品質の向上を図り、安定生産を目指す。

はだか麦は、実需者からの需要に応じた作付面積の維持と高品位平準化を目指す。また、法人、担い手を中心に農地集積等による省力・低コストを行い、需給状況に応じた作付拡大と栽培講習会等を活かした単収向上を図る。

大豆（黒大豆）については、象の里加工グループを中心とした地元加工品のブランド化と地産地消を推進するため、販売先との事前交渉を行って契約栽培することにより、単価の安定を図る。また、機械作業による省力化や排水対策の徹底により、地域需要に応えながら作付面積の拡大を目指す。昨年度より白大豆も参入した。白黒合わせた大豆の安定生産を図る。また、麦類、黒大豆ともに種子生産に取り組んでおり、種子需要に応じた継続的な生産と収入の安定に努める。

飼料作物については、農地利用率向上と国産飼料自給率向上を目的に自家利用計画策定と利用供給協定の締結により継続性のある安定生産体系を構築する。

（４）地力増進作物

ほ場整備後の地力回復や小麦、大豆等の連作障害回避を目的として作付けを行い、農業経営の安定化と農業生産基盤の確保を図る。なお、地力増進作物の種類は県ビジョンに準じる。

（５）高収益作物

当地域では、ニンニクの県内有数の産地であり、軽量野菜であるナバナ、オクラなどが作業支援体制の整備とともに作付面積は安定化している。今後も共同育苗施設、集出荷予冷、乾燥施設等の強化と利用促進、機械化一貫体系の確立により農地の利用増進や期間借地の推進による農地集積を推進し、農地利用率と生産性向上を図り、農家所得の安定と二毛作の栽培体系の確立を促進する。

レタスについては、現在、異常気象による生産の不安定化、販売価格の乱高下により農家所得が不安定な状況にあることから、作型の分散を行い安定出荷に努め、農業所得の安定と作付面積の拡大を図る。

ブロッコリーについては、ＪＡ支援作業を活用し面積増大に取り組んでおり、現在定植、出荷支援作業にて省力化を図る。

ニンニクもレタス同様、昨今の異常気象による品質低下で収量低下が懸念されている。国や県、ＪＡが協力して原因究明に取り組んでいる。ニンニクにおいては、ガーリック娘をはじめとする加工品を生産販売し、ねむ工房・象の里加工グループ等の加工場と商工会議所・社会福祉協議会等の販売元が連携し、地産地消を行っている。生産者の高齢化が進む中ではあるが、今後は安定生産を図るため、収穫支援事業の活用等により省力化を進め、面積の拡大を図る。

オクラについては、夏の高気温に苦しめられているものの、トンネル栽培などの促成栽培に取り組み、安定出荷を図るとともに、作業支援を活用して良品質安定生産を促進しながら、面積の拡大を図る。

ナバナについては、播種時期、品種特性、栽培管理等、随時講習会を開催する。播種機等の共同機械にて省力化を図ったり、出荷アイテムを増やすなどして需要のピークに合わせた出荷を行えるように努め、面積の拡大を図る。

キャベツについては、近年取り組む生産者数が増加傾向であり、今後も引き続き栽培面

積の維持、拡大を図る。

一寸そら豆については、ナバナ作期終了後の繋ぎとして栽培している。栽培技術の向上と平準化に取り組み安定した収量と品質を確保し、高い収益性を維持する。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	127.0		129.0		129.0	
麦	71.0	59.6	75.0	60.0	75.0	60.0
大豆(白・黒)	0.2		0.5		0.5	
飼料作物	0		1.0		1.0	
・子実用とうもろこし						
地力増進作物	0	0	8.0	7.0	8.0	7.0
高収益作物	46.1	15.8	45.5	28.2	45.5	28.2
野菜	46.1	15.8	45.5	28.2	45.5	28.2
レタス	2.4	1.4	2.4	1.6	2.4	1.6
ブロッコリー	7.8	1.9	7.9	2.0	7.9	2.0
ニンニク	10.8	4.7	10.0	5.0	10.0	5.0
オクラ	1.0	0.5	1.0	0.6	1.0	0.6
ナバナ	10.5	5.9	10.5	6.8	10.5	6.8
キャベツ	12.6	1.0	12.7	11.7	12.7	11.7
一寸そら豆	0.8	0.4	0.9	0.5	0.9	0.5
畑地化						

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）（ha）	目標値（ha）
				（令和4年度）	（令和5年度）
1-1 1-2	レタス ブロッコリー ニンニク オクラ ナバナ 一寸そら豆	野菜品目助成	レタスの作付面積 ブロッコリーの作付面積 ニンニクの作付面積 オクラの作付面積 ナバナの作付面積 一寸そら豆の作付面積	2.4 7.8 10.8 1.0 10.5 0.8	2.4 7.9 10.0 1.0 10.5 0.9
1-3 1-4	キャベツ		キャベツの作付面積	（令和4年度） 12.6	（令和5年度） 12.7
2-1 2-2	大豆（白・黒）	地域大豆加算	生産性向上技術取組面積 （大豆作付面積に占める 生産性向上等の取組率）	（令和4年度） 0.3 （91%）	（令和5年度） 0.5 （93%）
3-1 3-2	麦類	地域法人 麦作集積加算	法人の麦借地面積 （法人の麦借地農地の 高度利用率）	（令和4年度） 27.4 （94%）	（令和5年度） 23.6 （92%）

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：

協議会名：

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1-1	野菜品目助成	1	4,000	レタス、ブロッコリー、ニンニク、ナバナ、オクラ、一寸そら豆	実需者に販売・出荷することを目的として、助成対象作物の生産に取り組む農業者又は集落営農組織
1-2	野菜品目助成(二毛作)	2	4,000	レタス、ブロッコリー、ニンニク、ナバナ、オクラ、一寸そら豆	実需者に販売・出荷することを目的として、助成対象作物の生産に取り組む農業者又は集落営農組織
1-3	野菜品目助成	1	1,000	キャベツ	実需者に販売・出荷することを目的として、助成対象作物の生産に取り組む農業者又は集落営農組織
1-4	野菜品目助成(二毛作)	2	1,000	キャベツ	実需者に販売・出荷することを目的として、助成対象作物の生産に取り組む農業者又は集落営農組織
2-1	地域大豆加算	1	4,000	白・黒大豆	実需者等に出荷(種子含む)・販売することを目的として、大豆の生産に取り組む農業者又は集落営農組織
2-2	地域大豆(二毛作)	2	4,000	白・黒大豆	実需者等に出荷(種子含む)・販売することを目的として、大豆の生産に取り組む農業者又は集落営農組織
3-1	地域法人麦作集積加算	1	3,500	麦類(種子麦を含む)	実需者等に出荷・販売することを目的として、麦類の生産に取り組む法人
3-2	地域法人麦作集積加算(二毛作)	2	3,500	麦類(種子麦を含む)	実需者等に出荷・販売することを目的として、麦類の生産に取り組む法人

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。